外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣申請書

【研修実施のためのチェックリスト】

研修講師としてアドバイザーの派遣を希望する場合は、以下のチェックリストを作成し、申請書と共に提出してください。

アドバイザーが講師を務める研修において、取り扱いたいと考える内容のチェック欄に「◎」「○」を付けてください（複数選択可）。特に優先順位が高いものには「◎」をつけてください（複数選択可）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 内容 | 　○大項目　　・小項目　　※項目の一部は複数の内容で取り扱う | チェック欄 |
| Ａ　外国人児童生徒等教育の課題 | ○グローバル化と外国人児童生徒等・多文化化する学校　　・複言語主義　・多文化主義　　・言語的マイノリティ　　　○文化間移動とライフコース・成長・発達の視点　　・社会参加と自己実現　　・アイデンティティ○多文化共生教育　・異文化間能力　　・ダイバーシティ　　・市民性　　○公教育の役割・社会的正義、公正性　　　・学習権・言語権　　　・教育コミュニティ○日本語教育の位置付け |  |
| Ｂ　外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策 | ○外国人児童生徒等の現状と背景・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」・在留外国人統計　　・在留資格　　・児童生徒の出身地の教育制度・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン）〇外国人児童生徒等教育施策・「特別の教育課程」としての日本語指導・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール・就学義務と学習権（不就学、義務教育年齢超過）　・学校制度と入試（高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率）○地域の特性・当該自治体の多文化化状況（集住／散在）　・エスニック・コミュニティ・外国人支援の状況 |  |
| Ｃ　学校の受け入れ体制 | ○自治体の受け入れの流れ○自治体（教育委員会）の指導体制・日本語学級の設置　　・拠点校（センター校）　　・巡回指導　　・通級・初期集中日本語指導教室（プレクラス）　・就学前準備教育教室（プレスクール）・日本語指導員・母語相談員の派遣○校内の指導体制・校務分掌（外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当）　　　・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携・教員の加配　　　　・派遣日本語指導員、母語相談員・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者・取り出し指導（抽出指導）／入り込み指導　・「特別の教育課程」と個別の指導計画　　・評価と成績○教員・支援員間の連携・校内教職員・支援員の連携　　　・他校との連携　　・保幼小中高間連携　　 |  |
| Ｄ　文化適応 | ○外国人児童生徒等の文化・宗教　　・習慣　　・学校文化（「隠れたカリキュラム」）　・非言語行動〇文化接触・自文化中心主義／文化相対主義　　・文化本質主義／文化構築主義・ステレオタイプ、偏見、差別　　・対話　　・異文化の受容　・自己肯定感　　○子どもの文化適応・異文化適応のプロセス　　・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化）・情意面、行動面、認知面の違い　 |  |
| Ｅ　母語・母文化・アイデンティティ | ○母語と第二言語・バイリンガリズム　　・二つの言語の関係（二言語相互依存仮説）　・言語環境　　　　　　・言語の使い分け〇アイデンティティ・アイデンティティの動態性・多面性　　・母語・母文化とアイデンティティ　　○母語／継承語教育・家族とのコミュニケーション　　・認知面の支えとしての母語　　・母語保持・伸長の支援 |  |
| Ｆ　言語と認知の発達 | ○子どもの言語発達・一次的ことばと二次的ことば　　　　・萌芽的リテラシー　　　・ことばと思考　　　　・第二言語習得のプロセス(沈黙期、チャンク等)　・言語発達と発達障害、学習障害〇言語能力の捉え方・コミュニケーション能力　　　・言語の四技能　　・生活言語能力と学習言語能力○言語能力の測定法・言語テストの目的、実施方法、結果の活用　・言語能力測定ツール（文部科学省「JSL児童生徒のための対話型アセスメント（DLA）」） |  |
| Ｇ　日本語の特徴 | ○外国語としての日本語・音韻、文字・表記、語彙、文法　　・学校文法との違い　　・諸言語との対照○文章・談話・ジャンルと文体　　・ことばの機能　　・表現の意図　　・結束性　　○場面とことば・言語使用域　　　・敬語　　　　・話しことばと書きことば　・共通語と方言　　・ことばの性差　 |  |
| Ｈ　子どもの日本語教育の理論と方法 | ○日本語指導の内容（シラバス）・構造（文型）、場面、トピック、機能　等　○言語教育の考え方と方法・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（文部科学省「JSLカリキュラム」）・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導○学習活動 ・文型練習（パターン・プラクティス等）　・意味を重視した活動（タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等）〇教材・教具（リソース）の利用と作成・教材の分析　　　・教材の作成（補助教材・ワークシート・リライト教材等）　・メディアの活用　　　・知的財産権・著作権〇教科の指導　・「主体的・対話的で深い学び」　　　　・教科教育法　・授業のことば　　　・教科のことば　　・学習参加のための支援 |  |
| Ｉ　日本語指導の計画と実施 | ○日本語のコース設計の手順・実態把握（学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境）・目標設定と指導内容の決定　　・指導方法と評価方法の決定〇日本語プログラム・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSLカリキュラム」）、教科の補習・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム○指導計画の作成・年間指導計画の作成　　・対象児童生徒と指導期間の決定　　　・目標と評価・日本語プログラムの組み合わせ　　・「特別の教育課程」としての日本語指導　○模擬授業　・日本語指導の学習指導案の作成　　・模擬授業の実施　　・振り返り |  |
| Ｊ　在籍学級での学習支援 | ○学習参加のための支援・スキャフォールディング（足場かけ　例：「JSLカリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点）　　・フォーカス・オン・フォーム　　　　○学習環境づくり・校内、教室内の掲示　　・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題）・周囲の児童生徒との相互学習　　・周囲の児童生徒による支援○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント） |  |
| Ｋ　社会参加とキャリア教育 | ○キャリア教育・自己実現　・ロールモデル　・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス）・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置　　・就労と在留資格○社会参加とことばの力・情報リテラシー　　・社会参画　　　・市民性教育 |  |
| Ｌ　保護者・地域とのネットワーク | ○保護者の教育参加の促進・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語）・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ）・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施　・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等）○多文化家族・言語・文化の違いによる断絶　　・サード・カルチャー・キッズ○地域、専門家との連携・協力・地域の外国人支援の状況　　・エスニック・コミュニティ　　・居場所づくり　・国際交流協会、NPO団体等との連携　　・福祉・医療等関連機関との連携・大学等教育研究機関との連携　　 |  |
| Ｍ　現場における実践（実地教育・研修） | ○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施）・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解・指導体制・指導条件の多様性の理解　　・条件に応じた指導計画の作成・状況に応じた支援の工夫　　・関係者との連携・協働○実施記録の作成と振り返り・現場の状況　　　・実施内容　　　・授業・活動時の児童生徒の参加状況・担当教員・関係者から得た情報　　○実施した授業の振り返り・作成した指導計画について　　・当初の子ども観・教材観・指導観等・児童生徒の学び　　　・授業時の支援・対応について○現場での実践における倫理　　 |  |
| Ｎ　成長する教師（教員・支援員） | ○省察的実践家・自己の変容　　・自己研修　　・実践の共有○外国人児童生徒等教育の専門性の向上・日本語教育に関わる専門性　　・外国人児童生徒等教育に関わる専門性・他の領域の専門家との協働○教師（教員・支援員）としての成長　　・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味・リーダーとしての役割　　・新しい価値の創造　　・社会への働きかけ　　 |  |

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（公益社団法人日本語教育学会）